

〔先代舊事本紀國十〕日向國造

輕島豐明朝神應御世、豐國別皇子三世孫老男定賜國造、

〔日本書紀景七〕十三年五月、悉平襲國、因以居於高屋宮、已六年也、於是其國有佳人、曰御刀媛御刀

網波則召爲妃、生豐國別皇子、是日向國造之始祖也、

〔續日本紀元六〕和銅六年四月乙未、割日向國肝坏、贈於大隅、始置大隅國、

〔續日本紀淳二〕天平寶字六年正月戊子、從五位下田口朝臣大戸爲日向守、

〔太閤記十〕大隅日向知行割の事

日向五郡之内 二郡島津兵庫頭息又一郎 二郡新納武藏守 一郡御藏入

〔島津記〕六月天正十五年十五日には、義久公鹿兒島を御立ありて上洛し給ふ、略中扱又薩摩大隅は本

の如し、日向諸縣郡計給はりけり、略中日向國飢肥曾井清武は伊東に給ふ、同國縣三城宮崎は高

橋に給ふ、高城財部は秋月に被下、都於郡佐土原、三納穂北富は島津中務大輔家久に給ふ、眞幸院

は兵庫頭嫡子又一郎に給ひけり、

〔日向經緯略記〕當國元龜天正ノ比迄ハ、豊後ノ大友家ノ管轄ニ屬セリ、天正六年ノ冬、大友家飢肥

ノ伊東ガ爲ニ、薩摩ノ島津ト甘河ニテ戰テ大敗セシヨリ、暫ラク島津家ノ持トナリ、同十五年、豊

臣ノ關白家、島津征伐ノ後チハ、領主シバク替リテ、慶長十九年ニ、有馬左衛門ノ佐直純、肥前ノ

島原ヨリウツリ來リテ、此ノ國ノ主トナリ、元祿年中ニ至テ、有馬ハ越前ノ丸岡ニウツリ、三浦壹

岐守明敬此ノ地ニ主タリ、其後チ正徳二年ニ至リテ、三浦ハ作州ノ勝山ニウツリ、牧野備後守成

英三州ノ吉田ヨリ移リ、御當家藤内ノ領國トナリ、天正年中ヨリ延享四年マデ、凡ソ百七八十年

ノ間ニ、此國ノ主ヲ替ヘルコト八九度ニ及ベルナリ、今ノ君侯ノ御先祖ハ、奥州ノ磐城平ヨリ移

リテ、此ノ國ノ君ト成ラセ給ヘルコト、延享四年ヨリ此ノ文政八乙酉ノ年ニ至リ、既ニ七十九年